

家つてええつちやね

当院の在宅医療  
宇部協立病院 地域連携在宅医療科

宇部協立病院は、「在宅療養支援病院」として、在宅医療に積極的に取り組んでいます。

「在宅」とは、みなさんの住み慣れた住居のことです。  
住み慣れた場所で医療を受けるということは、どういう意味がある  
でしょうか？

私たちは、一生のうちに幾度となく病気にかかりますが、  
最近、一回の治療では治りきれない病気が増えています。

がんや脳卒中、慢性の心臓、呼吸器の病気が、その代表です。  
日本人が長生きになったこととも関係があります。

そんなとき重要になるのは“治す医療”とともに“**ささえる医療**”です。

“**ささえる医療**”というのは、

- ・病気が残っていても、つらい症状がないように
  - ・動きづらさはあっても、生活に支障がないように
  - ・自分ペースで毎日が送れるように
- するための医療です。介護と一体のものです。

病院の病棟は、“治す医療”を最優先につくられ、  
日々のスケジュールが決められています。

住み慣れた場所でうける在宅医療の一番よいところは、  
自分ペースの生活を大事にできることです。

もちろん、きちんとした“ささえる医療”を受けることが必要です。

在宅医療では・・・

①医師がお住まいにうかがいます！



10年来のおつきあい、Tさん

- ▶▶特別な準備は必要ありません  
普段のありのままをみせて下さい
- ▶▶したいこと、して欲しいことを  
率直に教えて下さい
- ▶▶いちばんよい方法を相談し、  
次回まで安心なようにしましょう

在宅医療では・・・

②何もなさそうでも定期的に、何かあればいつでも！



在宅療養支援病院

☞24時間体制

1～2週毎定期の訪問診療

何かあったときの緊急往診

☞そのために・・・連携

西川医院、藤野内科；“強化型”

市内訪問看護ステーション

往診に出発、必要そうなものは何でも積み込む！

たまには戸外のリハビリ先にも診察にうかがいます！



気持ちの良い陽光の下  
リハビリ中のNさんたち

在宅医療では・・・

③チーム編成は**オーダーメイド**です！

それぞれの患者さんごとにチームを組み立てて協力します



退院前の多職種の集まり



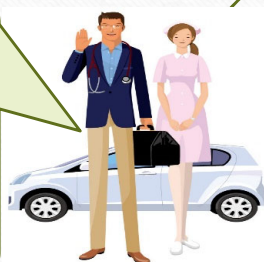
病院での検査の後、寄り道して・・・



在宅医は、チームの支え、  
病院との協力によって、  
その役割を果たします！

痛みやつらさは？  
栄養は？  
内臓のはたらきは？  
運動器のはたらきは？  
.....

おからだ全体への  
目配り



在宅医、看護師  
訪問診療



薬剤師  
訪問服薬指導



ケアマネジャー



© studio ROBIN



ヘルパー  
家事援助  
身体介助



訪問看護師



リハビリ

ここで、何人かの患者さんの、在宅療養の様子を、スライドで紹介  
します。がんや人工呼吸の患者さんもいらっしゃいます。

きびしい闘病生活を想像されるかもしれませんが、  
“緩和ケア”という“ささえる医療”を受けることで、  
家族や仲間とのおだやかな時間をもつことが可能です。

在宅では、好きな時に煙草を吸ったり、ギターを弾いたり、思いつ  
いたらお食事会をしたり、普段の自分を取りもどすことができます。

このことは、**自分の人生を振り返る**ことにもつながるのではないのでしょうか。

また、在宅では、なるべくコンパクトな治療機器をつかいます。介護用具も進歩しているので、協力できる人がいれば、体力が落ちていても、**外出が可能です**。

近所の海岸を散歩するだけでも、“**自然との一体感**”を感じることができます。

また、残された貴重な時間の中で、  
お孫さんたちに釣りを教えるために宇部港に出かけた方、  
釣り仲間の協力で日本海まで遠出をした方、  
息子さんと先祖の墓参りに出かけた方もいます。  
残される人たちへの“いのちの継承”です。

医療や介護関係のスタッフも出てきます。  
酸素や点滴など、医療機器の一部も垣間見えるかもしれません。  
日々をおだやかにすごすための心強い味方です。

在宅でご家族を看取った方たちのことばです；

- 夫を看取った70歳台女性；“何でも、予定を自分で立てて、周囲をそれに向けてひっぱっていく人だったので、近所の人に、**こんな最期(在宅死)もあるよと示したかったのだらう”**
- 夫を看取った60歳台女性；“私の手で、介護、看取りをさせてくれた夫に感謝している。ちょっと若かったけど、**10年後だと、体力的に私が看取れない**ことが分かっていたのだらう”

在宅でご家族を看取った方たちのことばです；

- 母を看取った30歳台女性；“家族全員で息をひきとる瞬間に立ち会えた、誰一人欠けることなく。これも母の計らいですね”
- 夫を看取った60歳台女性；“二人でたくさん話し、笑い、悲しみ、怒り、と大切な時間を与えられました。今のうちに聞きたいことを聞いておこうといっぱい話しました”

在宅でご家族を看取った方たちのことばです；

- 夫を看取った80歳台女性(元看護師)“何か気づいても、手の出せない病院より、いろいろやっていい自宅がよかった。だから、**やってあげたいことをすべてした**”
- 母を看取った40歳台男性(医師)；“母の最期までのひとときを実家で過ごすことができ、幸せでした。いっしょに夕食や朝食を食べたり、私だけが食事しているときも、**少しの間でも話をすることができて本当によかった**”